

ダンスで学んだこと

一宮西部小・4 小池 璃夢

わたしが、今がんばっていることは、ヒップホップダンスです。わたしが五才の時から習っていて、今年の四月から新しいクラスに変わりました。新しいクラスは、四年生から中学生までが入れるティーンクラスです。先生も今まで教えてくれた先生ではなく、男の先生に変わりました。その先生は、ダンスがとても上手で、わたしのあこがれている先生です。ティーンクラスのふり付けは、今までとはちがって、家で練習しないと出来ないくらいむずかしいです。

ティーンクラスになって一か月くらいたったころ、スペシャルユニットを組むためのオーディションがあると、先生から話がありました。わたしは、スペシャルユニットに入りたかったので、オーディションを受けることにしました。

オーディションの当日、わたしはとてもきんちょうしてなみだが出そうでした。でも、家族のみんなが、

「璃夢ならいける。璃夢なら大じょうぶ。」

と、言ってくれたのを思い出して、がんばろうと力がわいてきました。教室に着くと、わたしが一番最年少で、大きい子達ばかりだったので、またきんちょうしてはさかしくなってきました。オーディションでは、最初に先生にふり付けを教えてもらってから、三人ずつテストをしました。わたしは、教えてもらったふり付けに自信が

なかったの、みんなに見られるのがはずかしくて動きがとても小さくなってしまいました。そして、先生から合かくの発表がありました。私の名前は最後までよばれず、不合かくでした。とても悲しくて、くやしくて、エレベーターを下りて、むかえに来たお母さんの顔を見たしゅん間に、こらえていたなみだがあふれてきました。少し落ち着いてから、お母さんに今日の話をすると、

「ママは、璃夢がちょう戦したことがうれしい。受からなくていい。大きい子達の中で一生けん命がんばってオーディションを受けたことがうれしい。今直したほうがいい所を見つけたから、次から気を付けることができるよ。これからたくさん練習してまた次がんばろう。」

と言ってくれました。ダンスの先生にも、「くやしい思いをした子は、たくさん練習して、もつともつと上手くなれる。」

と言われました。最初は、悲しい気持ちばかりだったけれど、もつと練習して上手になりたい、次は、ぜつ対に合かくしたいという気持ちにだんだん変わってきました。くやしい思いをした時は成長できるチャンスなんだと前向きな気持ちになりました。

そして、オーディションの日から毎日練習していたら、レッスンの日の帰りのエレベーターの中で先生から、

「璃夢ちゃん、最近いい感じ。」

と言ってもらえました。とってもうれしかったです。

コロナウィルスの流行で、年に数回しかできなくなってしまったダンスイベントも、最近はどんどんふつ活して行って、お客さんの前でおどれる機会もふえてきたので、とてもうれしいです。ダ

ンスのイベントで、お客さんの前で発表する時は、一つ一つの動きを大切にすることはもちろんだけど、表じょうや、どう動いたらかっこよく見せられるか、楽しそうに見せられるかなども意識しきして、笑顔や細かい動きも大切にしています。去年までの、低学年クラスでは、自分がふり付けをしっかり覚えて、ダンスを楽しくおどる事で満足していました。でも、今年から入ったティーンクラスでは、見てくれている人にどう見えるかを意識しきして、クラスのみんなどのポジションを変える時の動のスムーズさなどを考えながらダンスをしています。

これからも、もっともっといっぱい練習して行って、先生やあこがれのお姉さんたちみたいにかっこいいダンスをおどれるようになりたいです。そして、次から新しい子がこのクラスに入ってきた時には、わたしがあこがれのお姉さんになれるようにしっかりがんばります。